

# 文学館だより

令和 4年 5月 1日  
若山牧水記念文学館  
TEL 0982 - 68 - 9511  
文 責 日 高

岡山県浅口市にある原田文学館から「若山牧水展」開催（5月9日～10月26日）の案内が届きました。牧水作品にまつわるエピソード、三浦敏夫との関わり、牧水に寄り添う喜志子と、惹きつけられる内容ばかりです。牧水が最初に岡山を訪ねてから115年と…。成功を祈ります。

## 青の國若山牧水短歌大会 ご応募お待ちしております

本年度も募集が始まりました。第12回を迎えた本大会。4月末時点で100通を超えるご応募をいただいています。初心者大歓迎です。5・7・5・7・7の調べに乗せてあなたの想いを短歌を詠んでみませんか。

- 【一般の部《自由題・題詠》】
  - 全国から応募できます。
  - 《自由題》ひとり1首応募できます。
  - 《題詠》「声」の漢字を使ってひとり1首応募できます。いずれか1首でもかまいません。
- 【小学生の部、中学生の部、高校生の部】
  - 宮崎県内の児童生徒が応募できます。
  - ひとり1首で、題は自由です。
- 【各部門共通】
  - 自作で未発表の短歌に限ります。
  - 作品に「ふりがな」が必要な場合は、つけてください。



### 昨年度の入賞作品より

夏の日の夢を語りて友と飲む日向生まれのあくがれブルー  
「太陽を飲みこんでく」と四歳の姪が指さす初めての海  
てとあしにせんたくばさみつけましたしんぞうけんしんおもしろかったな  
暑い夜楽しみなのは妹とはんぶんこにしたアイスクリーム  
いざ勝負家族で始まる UNO 大会今日の賞品たけのこの里

一般の部自由題佳作  
一般の部題詠佳作  
小学生の部佳作  
中学生の部佳作  
高校生の部佳作

詳細は、若山牧水ホームページでご確認いただくか、若山牧水記念文学館に直接お問い合わせください。昨年の5,610首を超える応募をお待ちしています。

## 求む！ 牧水顕彰会会員

私たちと一緒に牧水の足跡を後世に伝えていきませんか

日向若山牧水顕彰会は事務局を若山牧水記念文学館に置き、若山牧水の偉業・足跡をより多くの方々にお伝えすることを目的としています。本顕彰会は、昭和26年に結成され、70年という歳月を重ね、一度も途絶えることなく今に引き継がれています。会の目的に賛同される方、会の事業を援助される方は、ご入会をお願いいたします。

【会費】正会員（個人） 年額 1口 1,000円  
賛助会員（法人） 年額 1口 10,000円

【特典】1 会員証を発行し、会報「みなかみ」をお届けします。  
2 若山牧水記念文学館への入館料が無料となります。  
3 関連行事の案内等、牧水顕彰情報を提供いたします。



先月より案内させていただいています。会の目的に賛同される方、会の事業を援助してくださる方のご加入をお待ちしております。

# ご存じですか 牧水・短歌甲子園審査員の歌人たち



NHK 宮崎放送局「俵万智のわけもん短歌」(毎週月曜夕方)が始まりました。宮崎県内在住の 10 代の「わけもん」が対象の短歌コーナー。「テーマ詠」と「自由詠」を募集し、俵万智さんが選歌、解説しています。まだ見ちゃらんとおっしゃる方、一度いかがですか。見逃した方、動画視聴してみてもいかがですか。

俵 万智さん  
歌人。宮崎市在住。  
第 4 歌集「ブーさんの鼻」  
で第 11 回若山牧水賞受賞。  
2018 年『牧水の恋』、2021  
年『牧水の恋』(文庫版)  
出版。



今年も募集を開始した青の國若山牧水短歌大会において、一般の部自由題と小・中・高校生の部の選者を大口玲子さんをお願いしています。若山牧水賞に関しては、授賞式翌日は受賞者と行動を共にされ、文学館にも毎年お越しいただいています。そして、牧水・短歌甲子園審査員。文学館に寄り添い、常に支えていただいています。

大口 玲子さん  
歌人。宮崎市在住。  
第 4 歌集「トリサンナイタ」  
で第 17 回若山牧水賞  
受賞。(最年少受賞)  
宮日文芸歌壇(宮崎日日  
新聞)選者。



Eテレで毎週日曜午前 6 時から「NHK 短歌」が放送されています。今年度第 2 週の選者は笹公人さん。8 日(日)のゲストははるな愛さん。はるな愛さんが歌う「タピオカの夏」は、笹さん作詞です。週ごとに選者が変わり、楽しく短歌が学べる「NHK 短歌」。私の日曜日は、いつも「NHK 短歌」から始まります。

笹 公人さん  
歌人。東京都在住。  
「未来」選者、現代歌人  
協会理事。第 1 歌集『念  
力家族』は E テレにて連  
続ドラマ化。歌集、エッ  
セイ集、共著等多数出版。

今年は、3 年ぶりに全国から高校生を迎え、3 名の審査員の先生方もお迎えして、第 12 回牧水・短歌甲子園が開催できることを願います。



## 牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

### 若竹の伸びゆくごとく子ども等よ真直ぐにのばせ身をたましひを

をさな日の澄めるところを末かけて濁すとはすな子供等よやよ  
すみやかに過ぎゆくものをやよ子等よ汝(な)が幼な日をおろそかにすな  
うつくしく清き思ひ出とどめおかむ願ひを持ちて今をすごせよ  
人の世の長きはげしき働きに出でゆく前ぞいざあそべ子等  
子供等は子供らしかれ猿真似の物真似をして大人ぶるなかれ  
いちけたるつらは醜しのびのびとそだてよ子等よ事にたゆまで  
生意気はみにくきものぞ生意気の人若しあらば見ておもへ子等  
老いゆきてかへらぬものを父母の老いゆくすがた見守れや子等

これら 9 首は、「やよ少年たちよ」という詞書の中ことばがきにあり、大正 12 年に詠まれました。

今年度も日向市教育委員会の「ふるさと再発見」事業が始まりました。「ふるさと再発見」とは、日向市内すべての小学 6 年生と中学 3 年生が市内の旧跡、資料館、工場等を見学するというものです。文化、産業等に触れ、ふるさと日向の良さに気づき、ずっと継承していこうという気持ちが生まれてくれるとうれしいです。

早速、小学校 1 校が来られましたが、わずか 20 分という見学時間でした。説明も限られ、ゆっくり見れなかったであろうと思っていたところ、その中の一人が、2 日後の週末、家族で来てくださいました。質問してはメモを取り、説明を受けてはメモを取り、とても熱心な姿を見て、このまま身も魂もすくすく育てほしいと感じたひとときでした。牧水先生もきっと目を細くして見守っていらっしゃったことと思います。

